



園だより

文京区立第一幼稚園
令和6年度5月号

URL <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/dai1-kg/>

藤の花とこいのぼり

園長 田村 秀子

ハナミズキの白い花が木々の緑に映えて美しい季節となりました。園の樹木も日増しに緑が濃くなり、園庭に涼しい木陰をつくってくれています。肌寒い日もあれば、夏のような日差しの日もあり、天候が変わりやすい季節ですが、園の子供たちは日々の天候に応じて、元気に遊んでいます。

入園、進級から1ヵ月近くが過ぎ、子供たちがリラックスした笑顔を見せてくれるようになりました。自分のしたい遊びをしていいことが分かり、いろいろな遊具に触れたり、友達の様子を見て興味が広がったりして活発に遊び始めています。年少組や年中組も土の庭や緑の庭で楽しそうです。

砂場の上を見上げると、藤の花がたくさん咲いていました。しばらく咲かなかった藤が5年前から少しずつ咲き始めたのですが、今年は数えきれないほどの花を咲かせてくれました。皆で気をかけ、園の職員が剪定し、役所の方にも剪定の業者を手配していただいたお陰かと思えます。一つ一つの花をよく見ると淡いフリルのような花が美しい藤です。

「藤棚はうすむらさきに匂い立ち、瞳清しく 笑みかける子ら」

今は亡き第11代園長の石井達子先生が「かざぐるま」の創立70周年記念号に書かれた歌です。

花や実を拾ってままごとや色水に使うのが大好きな第一幼稚園の子供たちは、砂場に落ちた藤の花を集め、水に浮かべたり、砂のケーキに載せたりして遊んでいます。明治30年の創立10周年の時に植えられ、127年経った今もきれいな花を咲かせている藤の生命力に感動します。



土の庭には年長組の子供たちが作ったカラフルなこいのぼりが泳いでいます。うろこの材料や色、うろこの形や貼り方などをグループの友達と相談して決め、型をとる方法を伝え合ったり、力を合わせて一つ一つうろこを並べて貼ったりして創り上げました。先生たちの記録を見るとグループでの相談は難しく、意見が分かれて譲れなかったり、なかなか自分の意見を言えない姿もあったりしたようですが、時間をかけて話し合い、互いの考えを出し合い、聞き合えるように援助していくと、自分の考えを伝えることができたり、友達の意見を受け入れることができたり、新たなアイデアが出てきたりして、それぞれ素敵なこいのぼりが出来上がりました。青空に映えてとてもきれいです。

それを見た年少組や年中組も自分でのりを使ったりシールを貼ったりして、一人一本ずつのこいのぼりを作りました。自分の作ったこいのぼりを持って「お外に連れて行ってあげよう」と走り回る姿は生き生きとして、輝いています。

一つ一つ初めてのことを体験し、難しさと共に面白さを知り、自分なりのものを作り上げ、自信をもっていく子供たち。これからもたくさんものやこと、人と出会い、楽しい体験が広がるようになっていきたいと思えます。そして子供たちを見守る藤のように、園、家庭、地域も生き生きと子供たちを見守っていかれたらと思えます。